

授業科目 臨床検査総論実習 II

【担当教員名】 長濱 大輔、尾崎 京子、野崎 涼子		対象学年	2	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○			
【概要・一般目標：G10】 腎・尿路系疾患、消化管出血、脳脊髄疾患などにおける一般臨床検査の役割を実習を通じて把握する。その際、基本的な技術習得と同時に検査データを評価する力を養う。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 一般臨床検査の意義を説明できる。 2. 腎機能検査の種類を上げ、その意義と特徴について説明できる。 3. 尿沈渣検査の標本作製と沈渣成分のそれぞれの臨床的意義について実施・説明ができる。 4. 便潜血検査について説明できる。 5. 各項目の結果の解釈について説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1. 2	腎機能検査			1	実習
3. 4	糞便検査の概要と化学的、免疫学的便潜血検査			2	実習
5. 6	生物顕微鏡の位相差様使用法、尿沈渣標本の作製方法、鏡検の仕方、記載方法			3	実習
7. 8	尿沈渣検査のスライド観察			3	実習
9. 10	標本の作製、鏡検（1）-- 自己検体による			3	実習
11. 12	標本の作製、鏡検（2）-- 異常検体による			3	実習
13. 14	尿沈渣検査のまとめ（スライド観察）			3	実習
15. 16	脳脊髄液検査（性状、グロブリン反応、細胞数検査など）			4	実習
17. 18	脳脊髄液のタンパク定量検査			5	実習
19. 20	喀痰、胃液、十二指腸液検査			6	実習
21. 22	一般臨床検査結果の評価			7	
23	一般検査結果の評価、まとめ			1-7	実習
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書	臨床検査総論	伊藤 機一、松尾 収二 他	医学書院	2013	
その他の資料					
【評価方法】 定期試験（90%） レポート（10%）		【履修上の留意点】 一般臨床検査に関する基本的な技術を習得するので、できるまで繰り返し行うこと。			